

第1回大田区MICE推進会議 議事要旨

日 時：平成30(2018)年9月11日(火) 14:00～16:00
場 所：大田区役所 9階 902 会議室
委員出席者：玉井会長、荻原委員、児玉委員、小橋委員、小山委員
坂口委員(代理出席：飯田氏)、濱田委員、平井委員、細島委員
宮澤委員、横内委員 ※ 五十音順(会長除く)
オブザーバー出席者：荒井氏(大田区文化振興協会事務局長)
柏原氏(大田区体育協会事務局長)(代理出席：新関氏)
佐藤氏(大田区産業振興協会事務局長)
杉村氏(大田観光協会事務局長) ※ 五十音順

1. 開会

大田区観光・国際都市部の木田部長から、開会の挨拶が行われた。

2. 委員委嘱

委員の委嘱が行われた。その後、委員、事務局および、本推進会議の運営支援を行う三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社の自己紹介が行われた。

3. 会長選出

事務局から、大妻女子大学人間関係学部特任教授の玉井委員が推薦され、会長への就任が決定した。続いて、事務局より会長代行として東京商工会議所大田支部事務局長の小山委員が指名され、会長代行への就任が決定した後、玉井会長から挨拶が行われた。

続いて、事務局から会議録取扱要領(案)及び傍聴要領(案)の内容について、委員に対して確認が取られ、配布の通り決定した。また、本日出席のオブザーバーから、自己紹介が行われた。

4. 大田区MICE推進会議の設置趣旨と目的について

資料1「大田区MICE推進会議の目的(趣旨)・役割」に基づき、本会議体の目的や役割について、事務局から説明が行われた。

(会長)

- ・ これまで、何らかの形でMICEに関わった経験のある方がいれば挙手をお願いしたい(数名の委員が挙手)。宿泊や航空関係の方々が主であろうか。本会議においては、是非、皆さんの経験に基づく意見も出していただきたい。
- ・ これから大田区でMICEを推進していくにあたって、※KPIの設定は検討しているのか、事務局に確認したい。

※重要業績詳細指標・Key Performance Indicator

(事務局)

- ・ 現段階においては、今年度中にKPIの設定について検討することは難しいと考

えている。

5. 今後の会議日程・検討内容（案）について

資料2「今後の会議日程・検討内容（案）について」に基づき、今後の会議日程や各回で予定している検討内容について、事務局から説明が行われた。

（会長）

- ・ 委員の皆さまには、資料2の通りスケジュールの確保をお願いしたい。

6. 大田区観光を取り巻く現状について

資料3「大田区観光を取り巻く現状について～観光統計・マーケティング調査結果～」に基づき、近年の国や都の動向を含めた大田区の観光が置かれている状況について、事務局から説明が行われた。

（事務局）

- ・ 区民は大田区を観光地としては認識しておらず、地域の魅力を発信しようという意識も低いという課題はあるものの、五輪を控えて宿泊施設が増加傾向にあることなどから、大田区は観光分野を伸ばしていけるという結果となっている。
- ・ これまでMICEの推進は都が主体となって考えていたが、区としても誘致や受入に取り組んでいくことで、MICE参加者にも区内観光を楽しんでいただければと考えている。

7. 大田区におけるMICE推進の取組について

資料4「大田区における今後のMICE推進について～大田区らしいMICEの確立に向けて～」に基づき、近年の国や都の動向を含めた大田区の観光が置かれている状況について、事務局から説明が行われた。

（事務局）

- ・ 参考資料「Gateway to Tokyo Gateway to Japan Ota City」において、区の主要3施設として「大田区産業プラザ（PiO）」「大田区民ホール・アプリコ」「大田区総合体育館」を紹介しているほか、大森スポーツセンターもある。いずれも小規模ではあるが、これらの施設を活用して様々な会議を誘致し、MICEを推進していきたい。

（会長）

- ・ MICEについて概略を理解するために、東京都の発行している、参考資料「What's MICE - 国際都市東京をつくるビジネスイベント -」を読んでもらいたい。共通した基礎的な知識を持った上で、本推進会議ではMICEをどのように定義するかを決めなければ、今後の議論が進められない。
- ・ 委員の皆さんには、区のMICEにどのように関わろうとしているか、区はどのように取組めば良いかといった点で意見をいただきたい。

（委員）

- ・ 企業の経営に関する支援や課題解決を行っているが、観光は産業振興の施策の一部であると考えている。先ほどこれまでMICEは都が担っている部分が大き

かったという話があったが、自社では、東京都の産業振興に関してはほぼ毎年意見を出している。その中で、MICE施設の受入環境整備、ユニークベニユーの活用促進、MICEの経済波及効果、MICE人材の育成確保、MICE主催者へのプロモーション等の実施といった項目を挙げている。このような働きかけを通してMICEや観光の振興に取り組むことで、都や区に経済波及効果をもたらせたらと考えている。

(委員)

- ・ 以前他の大森のホテルにいた頃から、宿泊事業者の立場からMICEに関わっている。大田区総合体育館ができた頃から、体育館でのイベントの際に区内で宿泊施設が確保できないということで相談が来ていた。原因としては、区内の多くの宿泊施設には団体を受け入れるための宴会場等がない、観光バス用の駐車場がないといったことが挙げられる。
- ・ また、羽田空港の整備に伴い空港から都心へのアクセス網も整備され、例えば京急利用者は、途中の京急蒲田駅で降りることなく、直接品川駅まで出て行ってしまっている。
- ・ 自分のホテルの最寄駅は大森海岸駅だが、羽田空港へ行く際には、大森海岸駅から京急に乗るのではなく、大森駅から品川駅に出て京急に乗るように案内をしている。羽田空港までの物理的な距離は近いが、時間的な距離は遠くなってしまったと感じる。
- ・ 大規模なイベントが開催される際には、代理店に対して予約を何日前までに確定させる、保証金を支払うなどとしてもらわないとリスクが高い。小規模な宿泊業者では対応が難しい。そのため、現在、開催が保障されないイベントは区内の宿泊事業者が敬遠してしまっているが、後ろ盾があれば小さな宿泊業者でも手を挙げられるようになると思うので、自身が間に入って仲介役を担えればと考えている。

(委員)

- ・ 旅行会社として、委員の中ではMICEに最も多く関わっているかと思う。自社では、MICEを4つの成長戦略ドメインの中の1つとして掲げており、ビジネスの観点から狙っていくべきであると考えている。
- ・ 区内でMICEを実施する場合、残念ながら区内に宿泊施設が少ない。大田区産業プラザ（P i O）や大田区総合体育館といった会場は使い勝手が良いが、宿泊需要に対しては、品川方面等で対応している。
- ・ 新たにホテルを建てることも現実的ではないので、宿泊せずとも長い時間、区に留まりたいと思ってもらえるような「大田区らしさ」を考えていけると、売る側としては提案しやすい。

(委員)

- ・ これまで、品川やお台場から区内のスタジアムや体育館までといった輸送を多く引き受けてきた。羽田空港発着の輸送も国際線ができてからは増えているが、24時間体制は乗務員の確保が難しく、ネックになっている。対応策として、空港に着いてからすぐではなく、しばらく時間を置いてから輸送することで対応している。

- ・ 区内では現在小学生のボーイズリーグなどの大会が開催されているが、現在、他地域で実施されている大会などを誘致できれば、自社を含む多くのバス会社と共に協力していけるだろうと考えている。
- ・ 交通の便が良く、輸送手段があるため、宿泊需要への対応は区外宿泊施設でも良いと考えている。宿泊以外の点で区内に滞在してもらえらるような、プラスアルファの材料があれば良い。

(委員)

- ・ 自社ではケーブルテレビ事業等を全国で展開しており、各地の産業関係の事業者とも繋がりがあるため、PRの面で何らかの協力ができるかと思う。
- ・ メディア事業を実施しており、スポーツチャンネルも有しているため、スポーツイベントの誘致や、映像制作については支援等ができるかと思う。これから勉強しながら考えていきたい。

(委員)

- ・ 区の経済活性化を最終目的とした場合、イベントはきっかけでしかなく、飲食や宿泊等への人々の導線を作っていかなければならない。飲食店やホテル単位ではなく、エリアとして受け入れを行い、いかにして地域で事業者間が連携できるか、というところが重要になる。自社でも、ホテル等の拠点から地域へ誘導することを目的とした事業を行っている。
- ・ MICEの誘致を行う余力があるのかといった点で、主要施設における現在の施設稼働率を確認したい。

(大田区産業振興協会)

- ・ P i Oでは8割前後で推移している。

(会長)

- ・ MICEについて海外でPRを行っても、地元の人はその状況をほとんど知らないということが多々ある。地元へのPRも非常に重要である。

(委員)

- ・ 現状、大規模イベント等によって地域経済に良い影響が及ぼされているという実感はほとんどない。空港近辺の羽田、糎谷、大森といった地域の方々でも、MICEは眼中にないように感じる。もう少し情報発信を行っても良いのではないか。
- ・ 大田区、品川区、港区の湾岸エリアは新駅開業も控えており、まだまだ状況が変わってくるだろう。これらの区同士で連携を図りながら、並行して大田区らしさを考えていく必要があると感じる。

(委員)

- ・ 羽田空港では国内線は既に相当数の便が飛んでいるが、今後は国際線の拡大が予定されており、海外路線を更に増やしていくことになろうかと思う。
- ・ 羽田空港周辺で開催される会議の誘致は、自分たちの利益にも繋がるため、一緒になって取組んでいきたい。

(委員)

- ・ 国内外の顧客にアンケートを取っている中で、自社の認知度が非常に低いことが判明した。この問題について社内で議論した結果、エアラインの名前以前に日本や羽田、成田の認知度を上げる必要があるのではないかという結論に達し、数年前から日本のおもてなし、マナー、サービス、先進・先端技術を海外に訴求していこうというキャンペーンを実施している。
- ・ 同様の観点で考えると、世界的に見て空港名である「羽田」はある程度知られているかもしれないが、自治体名である「大田区」は知られていないのではないか。認知度については、これから一緒に考えていく必要がある。
- ・ 東にビッグサイト、西にパシフィコがあり、また区内の宿泊施設が不足しているという状況の中で、MICEの全てを区で賄うことは不可能だと思う。近隣の地域と連携して取組んでいくことで、大田区らしさや地域性を存分に発揮できるのではないかと考えている。
- ・ MICEの位置付けを、観光の素材の一つとするのか、それとも産業のイノベーションの創出の場とするのか、議論していきたいと考えている。

(会長)

- ・ 自身は7年前から国のMICE委員会でも委員をしているが、今回と全く同じような議論が出てきている。
- ・ M, I, C, Eでは、マーケットもアプローチの仕方も異なる中で、大田区らしさをどのように定義するかが重要となる。現在国では、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会後を見据えて、MICEの「C」、特に国際会議に絞って取り組むこととしている。区が独自に、大規模な国際会議を実施することが不可能であっても、国や都の取組を通して、一部に関わることは可能であり、その場合にはどのような関わり方があるのか、また、全て区で賄うことができるMICEにはどのようなものがあるのか、例えば同窓会のようなもの等、といった点について、整理が必要である。
- ・ MICEに取り組むにあたって様々な利害関係が生じる中で、意思決定者となるヘッドクォーターの設定が非常に重要である。コンペに勝つには、開催にかかる数字の開示の仕方の指示など、ヘッドクォーターが先導する必要がある。
- ・ 委員から出てきた切り口と問題点について、次回までに事務局に整理していただき、次回以降議論をしていきたい。
- ・ 区がこれからMICEを進めていく中で、地域の方々に開示できるようなデータはあるのか。

(大田区産業振興協会)

- ・ 会議の日程や人数等は開示できるが、実際に地域の事業者が得ている金額等のデータは開示できない。

(事務局)

- ・ 経済波及効果を示せば良いと思うが、現状では難しい。

(会長)

- ・ 地域を巻き込んでいくために何ができるかといったところが非常に難しく、PRビデオ等では効果がない。これは国の委員会でも一番の課題となっている。
- ・ 地域へのメリットについて説明していくため、委員の皆さんがそれぞれどのようなデータであれば開示できるかを考え、きちんと開示しそれを積み上げていく必要がある。これが地域の中でできれば、東京都に成功事例として提示できると思う。コンペに勝つためといった観点でも、宿泊施設等の協力を得るといった観点でも、整合性のある基礎情報の積み上げと開示は非常に重要となる。
- ・ 委員企業にも影響するため、海外の事例等も参照しつつ、今後どの部分であればどのように協力できるか、といった点について具体的に話していただきたい。

(観光協会)

- ・ 観光協会として、MICEのエクスカージョンの部分に関わることになろうかと思う。以前クロスミントンの国際大会が大森スポーツセンターにて開催された際には、大森に多数存在する海苔問屋に協力を仰ぎ、外国人ボランティアガイドグループと共に海苔巻き作り体験の実施等、日本の文化の紹介を行った。
- ・ ものづくり体験の場として実施しているオープンファクトリーが今年で8回目となる。今年から試験的に、東京観光財団と協力してB to B向けのツアーを構築しているが、産業振興フェアに来た方々に町工場への視察へと繋げられないかと考えて取組んでいる。

(会長)

- ・ 観光は付帯となるのか、中心となるのかについて、決める必要がある。学会や産業展の開催では観光は二の次となるが、その場合、参加者が「会議に参加したい」と思ってもらえるかどうかは会議の内容次第となる。
- ・ 海外では「横浜」というブランドですら通用しない。ホテルビジネスをやっていた際にも、海外ではよく「名前に東京と入れてくれ」と言われていた。
- ・ 以前、東京都が打ち出していた「&TOKYO」は素晴らしいコンセプトであったと思う。せっかく東京が背後にあるので、「&TOKYO」のように、東京の持っている資産やノウハウを十分に活用していくことが重要である。

(委員)

- ・ MICE推進体制の整備は、この会議体で実施するのであろうか。それとも、別途コンベンションビューローのような組織体を作るのであろうか。

(事務局)

- ・ 先進的な取組を行っている自治体は専門的な組織を持っていると認識しており、この会議の議論において組織が必要といった結論が出れば、検討したい。一方で、各主体が手分けをして取組んでいけるという結論が出た場合には、そのように動くことを考えている。悩ましい部分なので、示唆をいただきたい。

(委員)

- ・ 羽田空港を起点にしたMICEはインバウンドの招致という狙いがあると思うが、区内ホテルは、訪日外国人について個人客の受入に関する施策をとっているところが多い。海外を狙うのか国内を狙うのか、今後の大田区の方向性を決めていく

必要がある。

- ・ MICEの情報開示が行われたら、区で開催しているにも関わらず区外に宿泊している事例について、その原因を考える等、一つひとつの事例をもとに対策を練ったらよいと考えている。

(会長)

- ・ インバウンド、観光、MICEを切り分けなければならない。インバウンドと国内だと、圧倒的に国内の消費額の方が多い。

(委員)

- ・ 国際的にMICE誘致を見ると、日本は決断が遅く、シンガポールや香港には全く敵わないと聞く。決断速度を上げるためにも、先ほど挙げたような、ヘッドクォーターの導入等についての議論が重要であると感じる。

(会長)

- ・ MICEを何のために実施するのか。経済効果を生むための手段という視点なのか、地域が活力を生むための一つの切り口という視点なのか、いずれかに絞ることは難しいにしても、上手くバランスを取らなければならないと感じる。
- ・ 地元の方も関わりを持てるようにしていくのであれば、その点についても、第2回以降議論を進めていきたい。

8. 閉会

事務局から事務連絡が行われ、閉会が宣言された。

以上